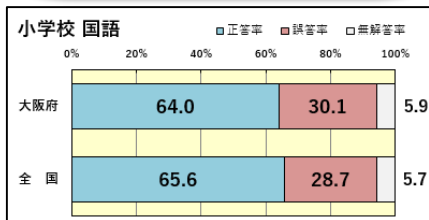


・学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されている。
 ・令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施している。

小学校国語

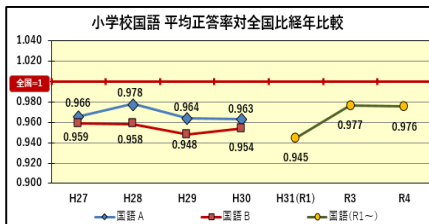
平均正答率は64.0%である。登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることはできている。一方で、互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



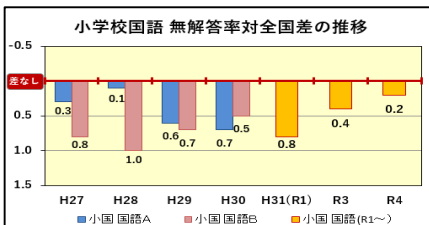
平均正答率は全国を1.6ポイント下回った

全国平均正答率が65.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は64.0%であり、1.6ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.976ポイントだった

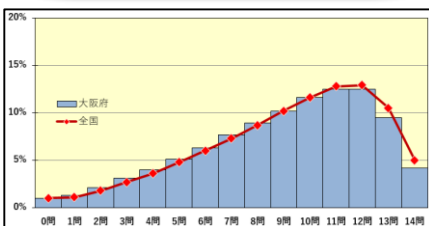
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.976であった。平成31年度（令和元年度）に比べると、0.031ポイント高いが、令和3年度より0.001ポイント低くなった。



無解答率は全国と比べ0.2ポイント差があった

全国平均無解答率が5.7%であるのに対し、大阪府の無解答率は5.9%であり、全国より0.2ポイント高いが、平成31年度（令和元年度）より0.6ポイント低くなった。

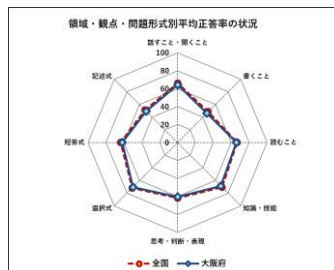
正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

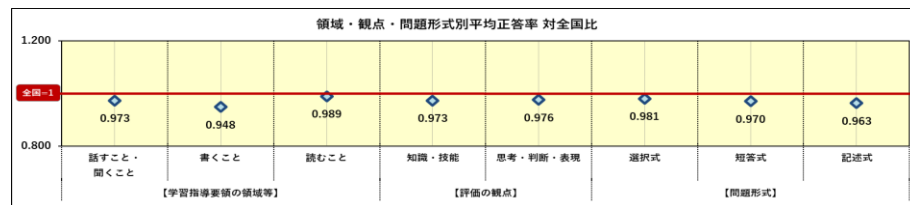
- 大阪府は11問および12問、全国は12問を頂点とした右寄りの山型を描いている。
- 大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、11～14問では全国よりも低い。

領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- 今回の出題内容においては、大阪府、全国とも「読むこと」の領域で高い値を示し、「書くこと」の領域、「記述式」で特に低い値を示している。



○対全国比では、「思考・判断・表現」「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

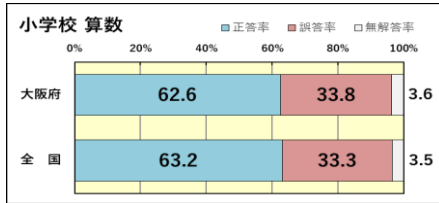
- ◇登場人物の相互関係について、描写を基に捉えることはできている。
 （物語を読み、登場人物同士が関わっていると考えられるところとして適切なものを選択する。[2]一（2））
- ◇人物像や物語の全体像を具体的に想像することはできている。
 （物語から伝わってくることを考え、【森田さんの文章】の文脈に即して書く。[2]二）
- ◆互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。
 （「ごみ拾い」が「花植え」かどちらかを選んで、会話の中でどのように話すか書く。[1]四）
- ◆文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えることに課題がある。
 （【文章2】にある表現がどのようなことに気を付けて書かれたのか、適切なものを選択する。[3]一）

・学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されている。
 ・令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施している。

小学校算数

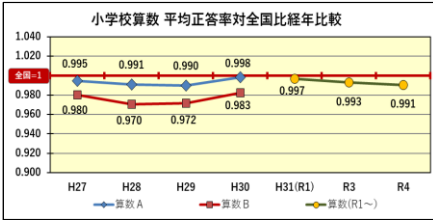
平均正答率は62.6%である。表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めたり、図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解することはできている。一方で、示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することや示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解するなどの課題に対する指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



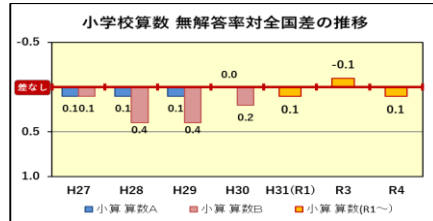
平均正答率は全国を0.6ポイント下回った

全国平均正答率が63.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は62.6%であり、0.6ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.991ポイントだった

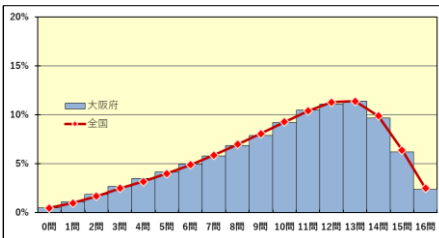
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.991であった。



無解答率は全国と比べ0.1ポイント差があった

全国平均無解答率が3.5%であるのに対し、大阪府の無解答率は3.6%であり、全国より0.1ポイント高い。

正答数分布

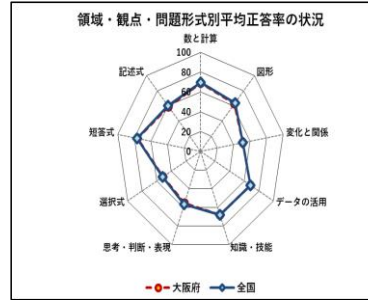


正答数分布の様子は全国と同傾向

○大阪府・全国ともに13問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は0問・13問では、全国と正答数分布の割合が等しく、1～6問・11問では、全国よりも高い。また、7～10問・12問・14～16問では、全国よりも低い。

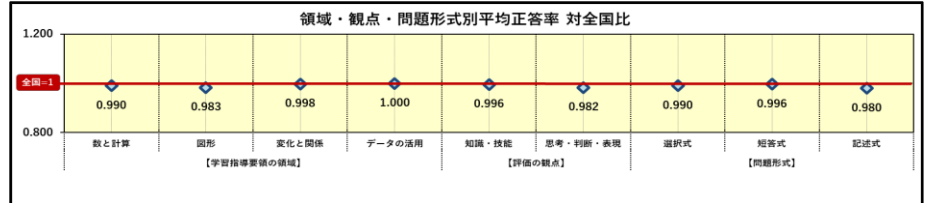
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「数と計算」・「短答式」でやや高く、「変化と関係」・「思考・判断・表現」・「選択式」でやや低い値を示している。



○対全国比では、「図形」・「思考・判断・表現」・「記述式」でやや低い値を示している。

具体的な児童の状況等

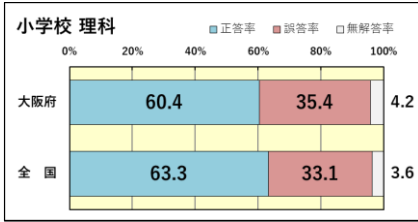
- ◇被乗数に空白のある整数の乗法の計算をすることはできている。(1050×4を計算する。1)
- ◇表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができている。(表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く。[3](1))
- ◇図形を構成する要素に着目して、長方形の意味や性質、構成の仕方について理解できている。(長方形のプログラムについて、向かい合う辺の長さを書く。[4](2))
- ◆示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。(85×21の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。[1](4))
- ◆示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題がある。(果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。[2](3))
- ◆伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。(果汁が30%含まれている飲み物に果汁が180mL入っているときの、飲み物の量の求め方と答えを書く。[2](4))
- ◆正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することに課題がある。(示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。[4](1))

・学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されている。
 ・令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施している。

小学校理科

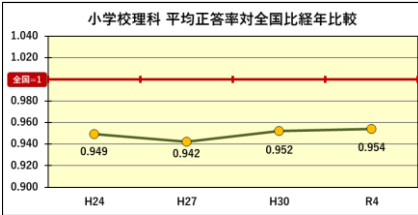
平均正答率は60.4%である。問題を解決するために必要な観察を基に、解決の道筋を構想することはできている。一方で、気付いたことを基に分析して、解釈し、適切な問題を見いだすこと、実験で得た結果を分析して、解釈し、結論の根拠を記述すること、知識を日常生活に関連付けて理解することに課題が見られ、問題解決の力を踏まえた指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



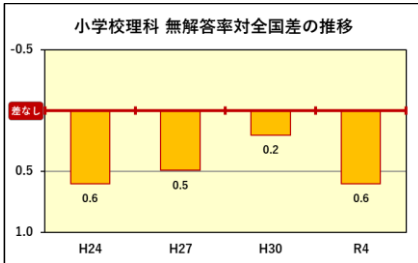
平均正答率は全国を2.9ポイント下回った

全国平均正答率が63.3%であるのに対し、大阪府の平均正答率は60.4%であり、2.9ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.954ポイントだった

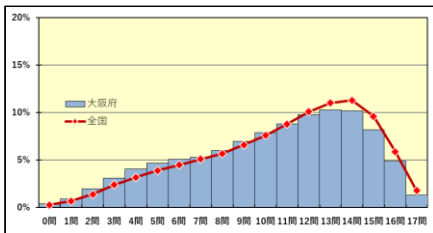
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.954であった。平成30年度に比べ、0.002ポイント高くなった。



無解答率は全国と比べ0.6ポイント差があった

全国平均無解答率が3.6%であるのに対し、大阪府の無解答率は4.2%であり、全国より0.6ポイント高い。

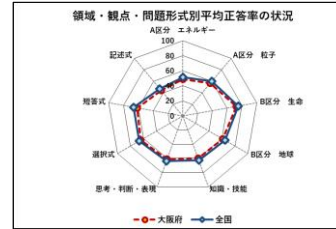
正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

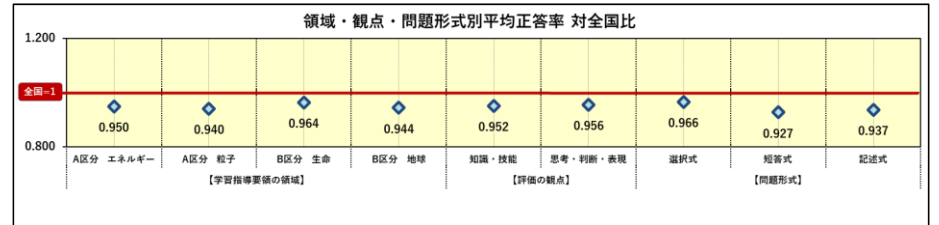
- 大阪府は13問、全国は14問を頂点とした右寄りの山型を描いている。
- 大阪府は0～10問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、12～17問では全国よりも低い。

領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- 今回の出題内容においては、大阪府・全国とも、B区分「生命」を柱とする領域で高い値を示し、A区分「エネルギー」を柱とする領域、「記述式」で低い値を示している。



- 対全国比では、「A区分 粒子」「短答式」「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

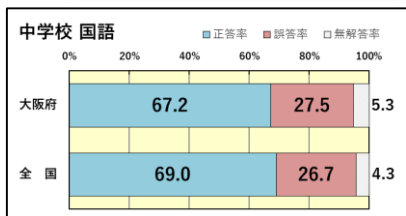
- ◇昆虫を観察する場面において、問題を解決するために必要な観察を基に、解決の道筋を構想することはできている。（葉の裏に見つけたナナホシテントウの卵から見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ。1（1））
- ◇観察で得た結果を分析して、解釈し、問題に正対した結論を導き出すことはできている。（冬の天気と気温の変化を基に、問題に対するまとめについて適切なものを選択する。4（1））
- ◆自然の事物・現象から得た情報を、他者の気付きを基に分析して、解釈し、適切な問題を見だし、記述することに課題がある。（凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題について書く。2（4））
- ◆実験した結果を分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容に基づいて、結論の根拠を記述することに課題がある。（缶の色と水の温度の変化との関係についての実験で得た結果のまとめから、その根拠について、結果を基にして記述する。3（4））
- ◆水が水蒸気になって空気中に含まれていることを日常生活に関連付けて理解することに課題がある。（鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変化したものかを書く。4（4））

・学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されている。
 ・令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施している。

中学校国語

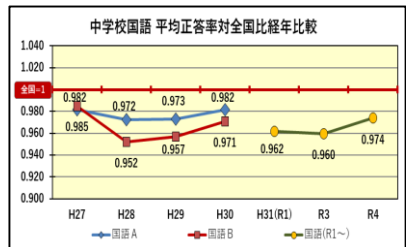
平均正答率は67.2%である。課題はあるものの場面と場面、場面と描写を結び付けて読むことは概ねできている。一方で、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用したり、複数の条件をふまえて書いたりすることに課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



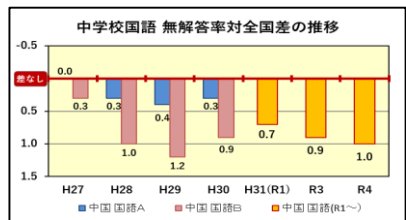
平均正答率は全国を1.8ポイント下回った

全国の平均正答率が69.0%であるのに対し、大阪府の平均正答率は67.2%であり、1.8ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.974ポイントだった

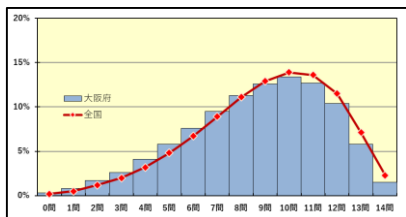
全国の平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.974であった。令和3年度と比べると、0.014ポイント高くなった。



無解答率は全国と比べ1.0ポイント差があった

全国の無解答率が4.3%であるのに対し、大阪府の無解答率は5.3%であり、全国より1.0ポイント高い。

正答数分布

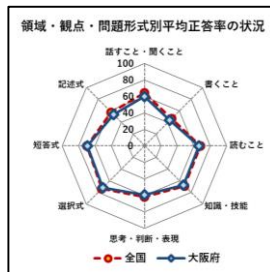


正答数分布の様子は全国と同傾向

○大阪府、全国ともに10問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、9～14問では全国よりも低い。

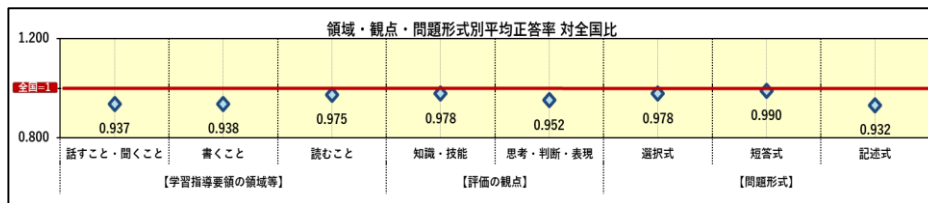
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とはほぼ重なるように同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府、全国とも「読むこと」の領域で高い値を示し、「書くこと」の領域、「記述式」で低い値を示している。



○対全国比では、「思考・判断・表現」「記述式」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

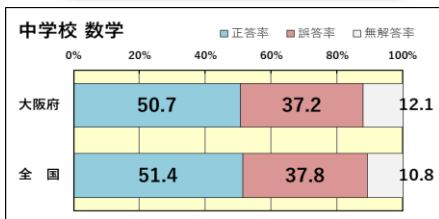
- ◇場面と場面、場面と描写などを結び付けて内容を解釈することは概ねできている。
 （「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く。 [3] 四）
- ◇事象や行為、心情を表す語句について理解している。
 （「途方に暮れた」の意味として適切なものを選択する。 [3] 二）
- ◇漢字の行書の読みやすい書き方について理解している。
 （最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する。 [4] 二）
- ◆自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことに課題がある。
 （スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く。 [1] 三）
- ◆考えの根拠が明確になるように情報を引用して書くことに課題がある。
 （農林水産省のウェブページにある資料の一部から必要な情報を引用し、意見文の下書きにスマート農業の効果を書き加える。 [2] 三）

・学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されている。
 ・令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施している。

中学校数学

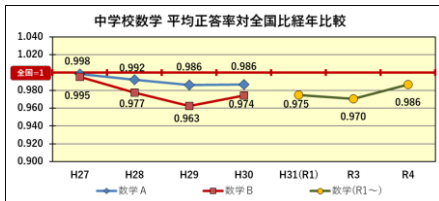
平均正答率は50.7%である。多数の観察や多数回の試行によって得られる確率を求めることについては改善の傾向が見られ、確率の意味を理解することはできている。一方で、数と式、関数、図形の領域において、結論から見いだした新たな事柄や、数学的に解釈した事象の問題解決の方法、筋道を立てて考えた事柄が成り立つ理由を、数学的な表現を用いて説明することの指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



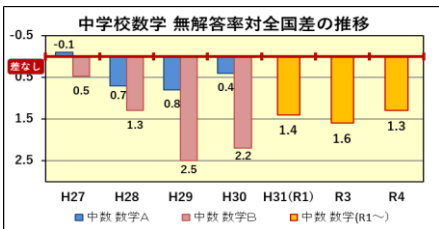
平均正答率は全国を0.7ポイント下回った

全国平均正答率が51.4%であるのに対し、大阪府の平均正答率は50.7%であり、0.7ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.986ポイントだった

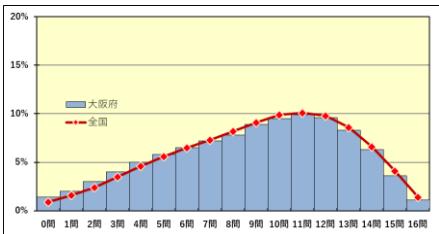
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.986であった。令和3年度と比べると、0.016ポイント高くなった。



無解答率は全国と比べ1.3ポイント差があった

全国平均無解答率が10.8%であるのに対し、大阪府の無解答率は12.1%であり、全国より1.3ポイント高いが、令和3年度と比べると、0.3ポイント低くなった。

正答数分布

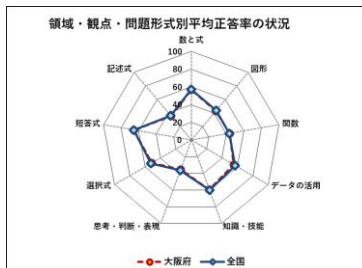


正答数分布の様子は全国と同傾向

○大阪府・全国ともに11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

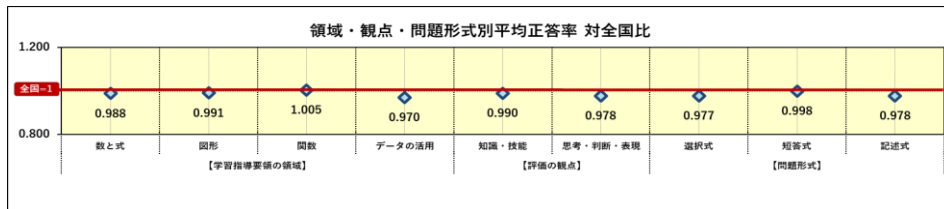
○大阪府は0～5問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、6問では等しく、7～16問では全国よりも低い。

領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- 今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「数と式」「データの活用」「知識・技能」「短答式」でやや高く、「図形」「関数」「記述式」「思考・判断・表現」でやや低い値を示している。



○対全国比では、「データの活用」「思考・判断・表現」「選択式」「記述式」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

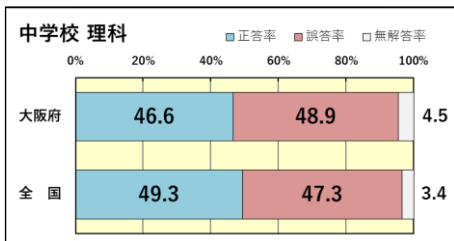
- ◇簡単な連立二元一次方程式を解くことができている。 $\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}$ を解く。 $\boxed{1}$
- ◇多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しており、改善の傾向が見られる。（容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ。 $\boxed{5}$ ）
- ◇問題場面における考察の対象を明確に捉えることができている。（同じ偶数の和である $2n + 2n = 4n$ について、 n が9のときにどのような計算を表しているかを書く。 $\boxed{6}$ （1））
- ◇証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。（証明で用いられる三角形の合同条件を書く。 $\boxed{9}$ （1））
- ◆結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。（ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する。 $\boxed{6}$ （3））
- ◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。（目標の300kgを達成するまでの日数を求める方法を説明する。 $\boxed{8}$ （2））
- ◆筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。（ $\angle ABE$ と $\angle CBF$ の和が 30° になる理由を示し、 $\angle EBF$ の大きさがいつでも 60° になることの説明を完成する。 $\boxed{9}$ （2））

・学習指導要領（平成29年告示）の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されている。
 ・令和4年度の教科に関する調査は、国語、算数・数学に加えて理科を4年ぶりに実施している。

中学校理科

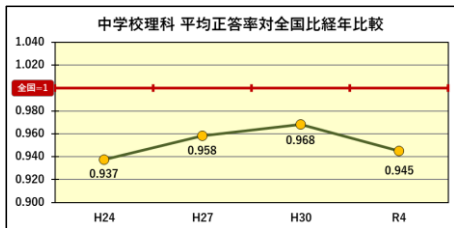
平均正答率は46.6%である。過去に課題が見られた実験の計画における条件の制御については改善の傾向が見られ、分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことはできている。一方で、観察・実験の結果に基づいて自他の考えを検討して改善すること、実験の計画を検討して改善すること、日常生活や社会と関連付けて活用することに継続的な課題があり、探究の過程を踏まえた指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



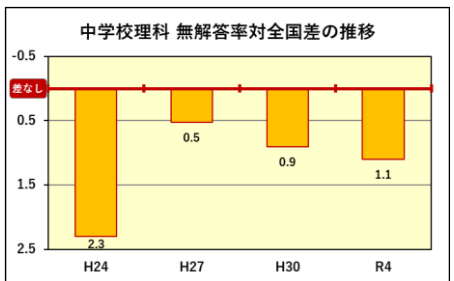
平均正答率は全国を2.7ポイント下回った

全国平均正答率が49.3%であるのに対し、大阪府の平均正答率は46.6%であり、2.7ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.945ポイントだった

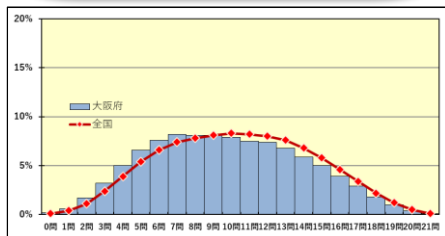
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.945であった。



無解答率は全国と比べ1.1ポイント差があった

全国平均無解答率が3.4%であるのに対し、大阪府の無解答率は4.5%であり、全国より1.1ポイント高い。

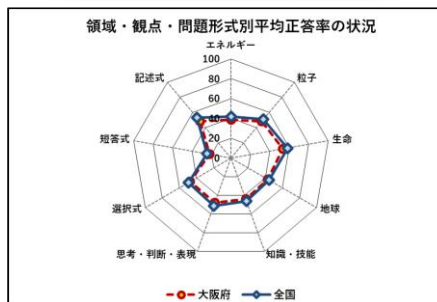
正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

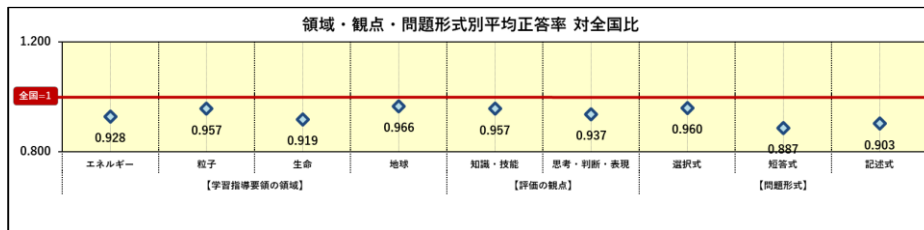
- 大阪府は7問、全国は10問を頂点とした緩やかな山型を描いている。
- 大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、10～20問では全国よりも低い。

領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

- レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。
- 今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「生命」でやや高く、「エネルギー」「短答式」で特に低い値を示している。



○対全国比では、「生命」「短答式」「記述式」で特に低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

- ◇変える条件と変えない条件を制御した実験の計画ができており、実験の計画における条件の制御について改善の傾向が見られる。（タッチパネルの反応に水が関係しているかを調べるために設定した実験操作の組み合わせを選択する。1（2））
- ◇分子のモデルで表した図を基に、化学変化を化学反応式で表すことはできている。（分子モデルで表した図を基に、水の燃焼を化学反応式で表す。3（1））
- ◆地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。（飛行機雲の残り方を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。2（3））
- ◆考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善することに課題がある。（力の働きに関する実験において、考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する。5（3））
- ◆化学変化と「エネルギー」を柱とする領域に関する知識及び技能を関連付け、分析して解釈することに課題がある。（水素を燃料として使うしくみの例の全体を動かせるおおもとを指摘する。3（3））